

# THE Y'S MEN'S CLUB OF NASU

# NETWORK NASU

CHARTERED 1995



那須ワイズメンズク

2022~2023年度 No.273

## 9 月報

那須クラブ会長 主題

### 地域につなげ那須ワイズ IV



強調月間：EMC

#### 今月の聖句 (ワイズ国際聖句)

父よ、あなたが私たちの内におられ、私たちがあなたの内にいるように、すべての人を一つにしてください。(後略) ヨハネによる福音書 17：21

#### 9月第1例会 (部長公式訪問・アジア学院との交流会)

日時：9月18日(日) 午後5時~7時

場所：日本基督教団西那須野教会 礼拝堂

内容：ワイズの目的でもあるYMCA(リーダー育成)の支援の一環として他者との交流を図る企画の一つ。自国の農村指導者となるべく研修にアジア学院にきている学生から自国の治安・経済・教育などを具体的に学生の思いをレクチャーしてもらい、質問を通してユースリーダーに何が伝わり、何を思ったかなどフリートークで交流を図る。栃木県はコロナ「BA.5対策強化宣言」を9月末まで延長する決定を受けて、飲食を伴う会は自粛する。

司会：書記 藤生 強

開会点鐘・挨拶 会長 河野 順子

ワイズソング斉唱 一同

ワイズの信条の斉唱 一同

聖書朗読・祈禱 司会者

ゲスト・ビジターの紹介

北東部部長挨拶 部長 大久保 知宏

スピーチ 通訳 大柳 由紀子 副校長

ンガムシェルさん(女) — インド

ティムさん(男) — ウガンダ

マエダさん(男) — インドネシア

ビムさん(男) — ネパール (研究課生)

フリートーク(質疑・応答)

YMCA・ワイズ報告

YMCAの歌

閉会挨拶・点鐘 会長 河野 順子

参加希望者は準備の都合がありますので、9月16日までに河野会長(090-1997-2077)まで連絡してください。

2022~2023年度 主題

国際会長：(IP) K・C・サミュエル(インド)

「フェロシップとインパクトで次の100年」

アジア太平洋地域会長：(AP) チェン・チ・ミン(台湾)

「新しい時代とともに、エレガントに変化を」

東日本区理事：(RD) 佐藤 重良(甲府21)

「未来に向けて今すぐ行動しよう」

北東部長：大久保 知宏(宇都宮)

「クラブのミッションを育てよう」

#### クラブ役員

会長：河野 順子

副会長：村田 榮・田村 修也

書記：藤生 強

会計：村田 榮・鈴木 保江

担当主事：平山 雄大

ブリテン：田村 修也・村田 榮

#### 8月例会データ (出席率：85.7%)

在籍者 7名

出席者 6名 メネット 1名 ゲスト 1名

#### 9月 Happy Birthday

なし

#### ・10月第2例会(役員会)

日時：9月30日(金) 午後5時から

場所：田村副会長宅・ZOOM

#### ・10月第1例会(アジア学院収穫感謝祭)

日時：10月15日(土) 午前9時~

場所：アジア学院

#### ・とちぎYMCAチャリティーラン

日時：10月9日(日) 午前9時から

場所：道の駅うつのみやロマンチック村

## 巻 頭 言

村田 榮

### 思いつくまま

いつも巻頭言を書くときに何を書けばよいのかと悩む。毎月の皆さんの書かれているものを読むと自己嫌悪に陥る。

2月より始まったロシアによるウクライナ侵略は、ミャンマーの軍部による政変は、内乱の続く地域では、そこに住む一般の市民が犠牲になっています。難民となって他国に逃れる人、自国で反対運動をする人、なすがままで生活をする人（胸の内はわからないが）、色々な生き方がある。それに比べて、自分は、ノンポリで平和な日本でほほんと暮らしている。出来事があればそれに反応をしながらも毎日の生活に流されている。この世界に戦争のない平和な世界ができることを祈ります。

安部元首相の銃撃事件を受けて思うことは、信仰の自由と国家権力と結びつく宗教、それを背景としたうごめく世界。国葬として使うお金は、コロナに苦しむ人たち、貧困で苦しむ子供たち、その他苦しんでいる人々にお金を使えと叫びたい!!

今年の気候は、異常気象と言わざるを得ない。5月に異常な暑さがあり、気象庁の発表で関東地方では梅雨が明けてしまった。その後は、各地に線状降水帯と呼ばれる、顕著な大雨に関する情報が多く発表され、各地で大きな被害が出ている。被害にあわれて今も苦しみの中にある方々のことを思うと心が痛みます。一日も早い復興復旧を祈ります。世界に目を転じてみると干ばつのニュースもあった。将来子供たちや孫たちを含めてみんなが暮らしやすい世界にするために、何をすべきかを考えてみたい。SDGsについて学ぶ必要がある。

義弟がなくなって、2度目の夏を迎えた。広い土地の草刈りと畑仕事に毎日を過ごしている。彼に如何に支えられてきたかを感じます。振り返れば、昨年9月に蜂に刺されて入院。その前には熱中症。後期高齢者になってどう行動をすべきか考えています。SDGsで考えればどうなんだろう。

8月的那須ワイズの例会は、1年に一度の例会を塩谷キャンプ場で行った。素晴らしいロケーションにある塩谷キャンプ場に一日も早く子供たちの歓喜にあふれた声に戻ってきてほしいものだ。2019年5月の例会で植えた木もそれなりに大きくなっている。定植をしてやる必要があります。塩谷キャンプ場をこよなく愛された、故原田時近イズより託された基金を利用して桜が咲き誇るキャンプ場になってほしいものです。このまま朽ちらせていくのは忍びない。

\*持続可能な開発目標（SDGs）とは、すべての人々にとってよりよい、より持続可能な未来を築くための青写真です。貧困や不平等、気候変動、環境劣化、繁栄、平和と公正など、私たちが直面するグローバルな諸課題の解決を目指します。SDGsの目標は相互に関連しています。誰一人置き去りにしないために、2030年までに各目標・ターゲットを達成することが重要です。



8月例会 於；原田晴子さん宅 2022. 08. 20

## 8月第1 (塩谷キャンプ場訪問・納涼例会) 例会報告

日時：8月20日(土) 午前10時～

場所：とちぎYMCA塩谷キャンプ場・原田さん宅

出席者：河野、田村、村田、藤生、張、平山の各メンバー、村田メネット。ゲスト：原田晴子8名

報告：藤生書記

8月例会は、前半は恒例となっているYMCA塩谷キャンプ場の現地視察と整備、後半は故原田ワイズ宅での視察報告を行いました。



YMCA塩谷キャンプ場は東日本大震災の原発事故により、キャンプ場を含めた周辺が放射線物質のホットスポット(数値が高い箇所)となったため、『子どもが使用する施設』ということもあり使用を中止しました。現在は数値的には十分下がっていますが、放射線物質の数値に対する考えは千差万別であり、YMCAとしての着地点を見出せていないため、再開には至っていません。閉鎖中ですが塩谷キャンプ場維持のため、不定期ながら草刈り整備をしております。例会の1週間前にも狭い範囲ですが行っているため、キャンプ場に入るとキッチン棟などフィールド内の主要なところまではそれほど足場を気にすることなく行くことが出来ました。今年は村田メンが用意した草刈り機3台を使って、草が伸びている場所の草刈り整備を行いました。また3年前に集会棟横に植樹した木の苗を覆っていた草も取り、順調に育っていることを確認し、来年にはフィールドに移植かなとも話しました。1時間ほどキャンプ場整備を行い、キャンプ場の視察と整備を終えました。



その後、塩谷キャンプ場開設(とちぎYMCA設立5周年事業)の中心メンバーである故原田ワイズ宅へ移動し、原田メネットと共に、例会後半を行いました。点鐘・ワイズソング・会長挨拶のあと視察

報告を行い、例会は終了となりました。原田さんのご厚意で、おいしいご飯を頂きました。ありがとうございました。

とちぎYMCAとして、まだまだ新型コロナ対応に追われていますので、キャンプ場再開への話し合いは先になるとのことでありますが、例会での視察・整備がそれら話し合いの役に立てればと願っています。



## 9月第2例会(役員会)報告

日時：8月29日(月) 午後5時から

場所：ZOOM

出席者：田村副会長、村田副会長、平山担当主事  
協議事項

### 1. 8月例会について

年に1度の訪問。少しの時間でも草刈りができよかった。蛭対策が必要である。

### 2. 9月例会について

アジア学院の学生を招いて、自国の治安・経済・教育などを話してもらい、質問を通じてユースリーダーとの交わりを通じて、交流を深める。日時は、9月18日(日)午後5時から7時。西那須野教会礼拝堂をお借りして行う。午後7時30分より教会の夕礼拝が始まるので午後7時には終わること。アジア学院へのお礼は、10,000円とする。北東部長大久保知宏ワイズの公式訪問例とする。プログラムを早い目に作り、アジア学院の学生に英語に翻訳してもらい、早い目に渡してもらおうと学生たちも理解がしやすいのではとの意見があった。(村田が大柳副校長と相談する)

### 3. 10月第2例会(役員会)について

9月30日(金)午後5時より田村副会長宅で行う。コロナの拡大では、ZOOM開催も可とする。平山担当主事は、ステップⅡに参加のため参加不可。ZOOMの招待は、藤生書記に依頼する。

### 4. 北東部大会について

9月17日(土)の予定であったが、コロナ拡大により、12月3日(土)に変更の案内があった。

### 5. アジア学院収穫感謝祭について

10月15日(土)に開催される。内容等については、9月例会後に詳細について相談する。

#### 6. チャリティーランについて

10月9日(日)に開催されるチャリティーランに関することも9月例会後に相談する。

#### 7. シイタケ昆布の注文について

個数を確認の上注文する。

### 旧西那須野(那須西原)の緑と水(第112回)

田村修也

私は2008年から2017年迄、アジア学院の依頼を受けて「那須疏水と那須野が原開拓史」を話させて頂いてきました。毎年4月にその年の研修生を迎えて入学式が行われます。そして、学生の皆さんが研修にきたアジア学院がどのような風土の中にあるのか、何故アジア学院が西那須野に設立されたかを知って頂くために、現地を廻りながら説明して参りました。

最後に、2018年からは健康上の理由で現地説明が出来なくなりましたので、最期のレクチャーとなった2017年4月26日の説明資料を紹介して、「旧西那須野(那須西原)の緑と水」を終了刺せて頂きます。通訳は前副校長の荒川朋子さん、そして、荒川さんが校長になってからは副校長の大柳由紀子さんが当たってくれました。

#### 「那須野が原の開拓と那須疏水の歴史」

初めにアコーディオンを弾きながら、以下のイザヤの預言の言葉を歌う。

プロローグ(イザヤ書35章5~10節)

○荒野に水が 荒地に花が 焼けて地は沢と 水の湧く所と ジャッカルのねぐらは 葦の茂みとなり そこに大路があり 聖なる道と呼ばれる。○荒野は 楽しみ 荒地は喜び 焼けた地に花が 咲き誇り歌う ジャッカルのねぐらは 葦の茂みとなり そこに大路があり 聖なる道と呼ばれる。」

この歌は、旧約聖書イザヤ書35章の預言の言葉です。

今、皆さんが一步外へ出ますと、皆さんの目の前には、耕されて、田の畔もきれいにしっかりと塗り固められて、水を引き入れ、田植えを待つばかりになっている水田が見えますね。また、長い眠りから覚めて、大空に向かって緑の芽吹きをはじめた林が見えますね。まるで、旧約聖書出エジプト記3章8節に出てくる、あの荒野で40年間放浪の、旅をつづけたイスラエルの民に、神さまが約束された「乳と蜜の流れる国」のようですね。今、何処へ行って

も、ごく当たり前に見ることが出来るこの姿は、今から約140年前に、開拓に挑戦された先人が、夢に描いた究極の姿なのです。

他の地域から移り住んでこられた方々にとりましては、この自然の姿は、日本全国、何処でも見られる、ごく当り前の風景に見えることだと思います。日本語で「自然」という言葉は「自ら然り」、言い換えれば「太古の昔から変わらないそのままの姿」という意味です。けれども、この地域一帯は、今から140年ほど前まで、侍の時代が終り、日本と言う新しい国が出来るまでは、歴史始まって以来、人間の住むことを拒んできた、水も木も殆ど無い「那須野が原」と呼ばれる「荒れ野原」でした。

この「荒れ野原」に開拓者たちが挑戦して、140年かけて、4世代に亘って命を捧げ、骨を埋めて、やっと人間が安心して生きて行けるように、築き上げてきたのが、この「那須野の大地」なのです。アジア学院の東側に流れている蛇尾川を挟んで、東に約5000ha、西にも5000ha、合せて10000haの広大な原野が広がっていました。何故、「歴史始まって以来、人間が住むことが出来なかったのか」、それは、第1に水が無かったからです。何故水が無かったのか、それは、今でも蛇尾川が水のない川であるように、この蛇尾川が作り出した扇状地が、全ての水を地下深く浸透させてしまう砂礫の堆積地のため、地表を流れる水が全く無かったからなのです。

そのため、この那須野が原は「那須の篠原」と歌い継がれているように、木という木は殆どなく、一面、篠という細い竹のような植物を主として、乾燥地に生えるススキなどが密集していて、一度迷い込むと、生きては帰ってくるが出来ないと言われるほど恐ろしい所でした。水田の周辺、水路の周辺には、篠藪やススキの原が残っていて、その状況を今に伝えています。

本日は、「その原野に、誰が挑戦し、どのようにして水路が作られ、どのようにして開拓されていったのか」、これから、皆さんと一緒に、その足跡をたどる巡礼の旅に出かけましょう。(以下次号へ続く)

### 西那須野幼稚園だより

学校法人 西那須野学園

西那須野幼稚園

園長・理事長 福本 光男

夏休み前からくるみの木が落葉しはじめ、昇降口前にある栗の木のように芽吹いたけれど、枯れてし

まうのかと心配しました。「木々は、光を求めての競争し合うのではなく、ネットワークでコミュニケーションを取り合って協力し合う社会的な存在である（「樹木たちの知られざる生活 森林管理官が聴いた森の声」ペーター・ヴォルヘルペン）とも言われているからです。

夏休み中に園内樹木のせん定に来ていただいた植木屋さんによると、「カミキリムシによるおが屑も落ちていないので、くるみの木が、この異常な暑さが続くなかで生き残る為に、自ら落葉し、葉からの水分蒸散を減らしている」とのことでした。また、「今は幹から脇芽も出てきているので、この木は大丈夫」とのことです。私は、このくるみ木が移植されて以来20数年間、毎日のように見てきましたが、このようなことを考え行動していることを初めて目撃し、とても驚きました。この夏、この地で気候災害は起きませんでした。大きな気候変動下にあることを、栗の木、クルミの木が物語っています。

最後に、日本は、敗戦77年、平和憲法の下、一応は戦争に参加していないとのことですが、自衛隊は、過去にイラン、アフガニスタンの治安維持に派遣され、アメリカが戦争に巻き込まれると集団的自衛権の行使ということで参戦できるようになりました。一歩世界に目を向けると、大変残念なことに、ウクライナだけでなく、様々な国や地域で戦闘が続いており、日本を取り巻く環境も緊張が高まってきました。私たち人間も木々のように、コミュニケーションを取り助け合って、平和な地球を実現する存在になることを願います。幼稚園は平和を教えるところです。

## アジア学院たより

学校法人 アジア学院

アジア農村指導者養成専門学校

校長 荒川 朋子

### 「戦争責任の告白として日々の生活を生き続ける」

日本キリスト教団のホームページ上に「今月のメッセージ」のという10分間の動画が月替わりで2か月分ずつ掲載されていますが、8月はアジア学院からのメッセージ動画が上げられています。8月は平和を覚える月であることから、そのメッセージの一部ではアジア学院の設立の理念について話させていただきましたので、それを紹介します。

「共に生きるために」はアジア学院のモットーで

す。

「共に生きるために」が意味するひとつめのことは、「戦争責任の告白として日々の生活を生き続ける」ということです。

アジア学院の始まりは、東京町田市にある農村伝道神学校に併設された「東南アジア農村指導者養成所」にあります。そのプログラムの設立は、戦後徐々に復興し経済成長を始めた日本にあるキリスト教会に対し、農村復興のための牧師や信徒の養成が緊急課題となっていた当時の東南アジアのキリスト教諸教会が行った要請がきっかけでした。その要請に応え1960年に「東南アジア農村指導者養成所」は開設されたのですが、そのプログラムは当初期待されていた牧師や信徒の農業技術の習得以上の使命をすでに負っていたと、当時プログラム開設に関わった人たちは証言しています。「この養成所が「神学校」内に設置されることとなったことの意味は、第二次大戦において日本の諸教会が戦争協力に加担したことに対し、戦争責任を告白し、具体的な贖罪の歩みを始めることにあった」と言って、アジア学院がアジアの人々に対する罪の償いと和解への願いが、「東南アジア農村指導者養成所」の根底にあることを明らかにしています。

現に開設してしばらくは、プログラム参加者の中には第二次大戦で日本軍によって家族が殺されたり、村が焼き払われたり、心に大きな傷を負った人たちが少なくなかったといえます。そういった戦争の被害者を加害国である日本にお呼びして、毎日を共に生き、神様の創造の業と恵に共にあずかる日々を送ることは、「戦争責任の告白として日々の生活を生き続ける」ことであつたに違いないと思うのです。

では戦争の被害を直接受けた人が招かれることがなくなった近年は、このことはもう関係のないことでしょうか。私はそうは思いません。

私たちは皆その大戦を含む歴史の一部であり、世界のあちこちで起きている暴力の数々も、その延長線上にあつたり、何らかの関係を含んでいます。アジア学院にはアフリカや南米からも多くの人たちが参加しますが、彼ら、彼女らの多くは、ヨーロッパの国々がアフリカを植民地として利用し搾取した歴史の犠牲者たちで、それは遠い過去の話ではなく、今もリアルタイムで続く現実であります。そしてその社会経済構造の中に、日本を含むアジアも深く関与しており、私たちの毎日の生活も網の目のように彼らの現実と結びついています。今ロシアとウクライナの戦争によって、世界中が多岐にわたって影響を受けていることからそのことがよくわかります。

私たちは皆、戦争や、人間の悲劇を生む欲や孤独や恐怖の被害者であり、同時に加害者でもあるのです。

その現実を受け止め、私たちはどう生きていくのか？

その一つの答えとして、私たちは「共に生きるために」というモットーを与えられたと思っています。すべての人々にとって最も大切ないのちを支えるたべものを大切に生活する生活を基盤に、すべての人々が平等に神様に愛されているかけがえのない存在として認め合いながら毎日を生きて、そのことを通じて贖罪の業に預かりたいと願っています。

## YMCAだより

【とちぎYMCA サマープログラムが終了しました！】

7月下旬よりスタートしましたとちぎYMCAサ



マープログラム（ウェルネス・イングリッシュプログラムを含む）が予定通り実施されました。中止のプログラムや内容の変更などもありましたが大きなけがや事故もなく無事に終了いたしました。プログラム中、有意義な時間を過ごし、貴重な体験を重ねることができました。

那須YMCAでは、大学生のユースボランティアリーダーが各プログラムに参加し、それぞれの役割の中で子どもたちと向き合い、共に楽しみながら学び、成長することができました。

YMCAのプログラムにはCaring（やさしくする）、Honesty（しょうじきになる）、Respect（人を大切におもおう）、Responsibility（できることは自分からする）というYMCAで大切にしている4つの想いが込められています。プログラムの様々な場面で、子どもたちがそれらを感じ考えてくれたらとても嬉しく思います。また、その経験が子どもたちを成長させ、日々の生活で活かされることを願い、今後もプログラムを展開していきます。

【とちぎYMCA・那須YMCAの9月の予定】

・8/27（土） サタデークラブ@西

那須野幼稚園(科学実験)

・9/3（土）～10（土） IYC@タイ（チェンマイ） ※スタッフ1名が参加します。

・9/10（土） サタデークラブ@西

那須野幼稚園(科学実験)

・9/11（日） Yキッズ@モビリティリゾートもてぎ（アスレチック）

・9/17（土） サタデークラブ@宮崎りんご園（りんご狩り）

・9/18（日） サタデークラブ@宮崎りんご園（りんご狩り） 予定

・9/23（金）～9/25（日） 全国YMCAリーダー研修会@熊本YMCA ※2名のリーダーが参加します。

・9/30（金）～10/2（日） ユースボランティア・リーダーズフォーラム@山中湖センター ※4名のリーダーが参加します。

## ユースリーダーのつぶやき

1. 名前（リーダー名） 2. 学校名 3. 出身地 4. YMCAに入ったきっかけは？ 5. 思い出に残った活動とその理由は？ 6. 今後の進路は？ 7. YMCAに一言

今月は休みます